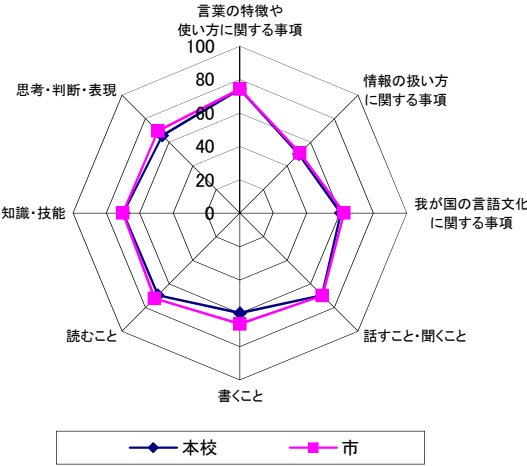


宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.3	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	50.0	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	60.5	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	69.8	69.9	69.7
	書くこと	59.9	66.4	64.6
	読むこと	69.6	72.3	71.0
観点別	知識・技能	69.9	70.1	70.0
	思考・判断・表現	65.7	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

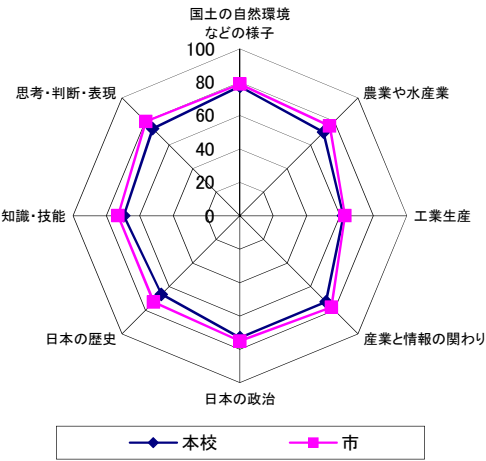
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均と同じであった。 ○漢字の読みや熟語の構成について理解している。音読の指導を継続的に行った成果であると考えられる。 ●漢字の書き取りの定着や敬語の使い方に課題が見られた。	・定着を図るため漢字の小テストを小まめに行ったり、同じ漢字を使った学習やテストを行うようにする。 ・敬語については単元での学習をもとに、日常生活での実践を繰り返し指導していく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて0.9ポイント低い。 ○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題で市の平均を0.4ポイント上回る。複数の情報を関連付けながら読み取ったり、問われていることを考えながら整理したりする活動を継続的に行った成果であると考えられる。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題に課題が見られた。	・条件に沿って、短文を書く指導をくり返し行うようにする。国語以外の教科でも、条件に合わせて自分の意見を書く活動を行っていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて1.9ポイント低い。 ●漢字の由来についての理解に課題が見られた。	・漢字指導の際には、字の成り立ちや意味も確認しながら、指導を行う。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均と比べて0.1ポイント低い。 ○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話を聞く問題で市の平均を5.8ポイント上回る。授業の中でペア学習やグループ学習を取り入れ話し合いの力を高めてきた成果であると考えられる。 ●話し合いのとき、話し手の考えを広げるための工夫を捉える問題に課題が見られる。	・話し合いでは、話すだけでなく、目的をもった話し合いができるようにする。また、他教科や日常でも聞く活動を意識的に取り入れていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均と比べて6.5ポイント低い。 ○表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるようにして文章を書くこと問題で市の平均を1.1ポイント上回る。自分の考えを表現するという活動を多く取り入れてきた成果であると考えられる。 ●資料を読み取ったり、理由や事例を挙げたりしながら文章を書くことに課題が見られた。	・資料等を読み取ったり、友達と理由を明確にしながら意見を比較したりする活動を事前に行い、文章に表す活動を取り入れていく。国語以外の教科でも、資料を利用し考えたことを書くことに慣れさせる活動を行っていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均と比べて2.7ポイント低い。 ○説明文の読み取りでは、文章の論の進め方を捉える問題で市の平均を2.9ポイント上回る。 ●物語文の読み取りでは、登場人物の行動や心情について、描写を基に捉える問題に課題が見られた。	・教師によるお勧めの本を紹介したり、読み聞かせの機会を設けたりすることで、様々な作家の図書に関心をもたせ、物語文の表現に慣れるようにする。 ・自分が読んだ本の紹介をする活動を取り入れることで、児童一人ひとりの読み取る力を見取るようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	77.5	78.9	75.4
	農業や水産業	70.9	76.1	71.2
	工業生産	62.1	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	73.0	77.6	59.7
	日本の政治	73.0	75.0	79.3
	日本の歴史	66.5	73.1	72.8
観点別	知識・技能	69.6	73.0	71.4
	思考・判断・表現	73.9	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

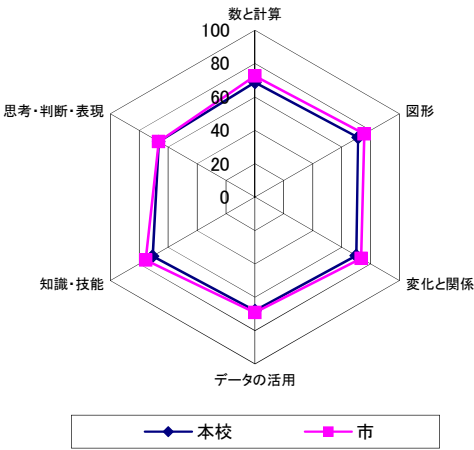
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均と比べて1. 4ポイント低い。 ○天然林と人工林についての問題では、市の平均を2. 8ポイント上回る。日本の林業についての映像を活用し指導してきた成果であると考えられる。 ●日本の周辺の海洋名についての理解に課題が見られた。	・地理的な学習の時だけでなく、様々な学習の機会に地図を開き、場所を確認して印を付けるなど、地理的な感覚を養っていくようにする。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均と比べて5. 2ポイント低い。 ●複数の資料に着目して、魚の流通にかかる費用について捉え、判断する問題に課題がみられた。	・授業の中で、資料から読み取れる情報を整理、分析して関連付け、複雑な社会事象について読み取りながら、自分の考えを書く活動を取り入れていく。
工業生産	平均正答率は、市の平均と比べて0. 8ポイント低い。 ○大工場と中小工場の理解をもとに、資料を読み取る問題では、市の平均を3. 5ポイント上回る。普段の授業で資料から読み取れることを自分の言葉でまとめるという活動を行った成果であると考えられる。 ●自動車工場の作業過程についての理解に課題が見られた。	・自動車工場についての学習では、直接工場を見られる機会が少ないため、デジタル教科書の動画やインターネットの資料を使うなど指導の充実を図る。
産業と情報の関わり	平均正答率は、市の平均と比べて4. 6ポイント低い。 ○インターネットを利用するときの注意点についての問題では、市の平均を0. 8ポイント上回る。社会の授業だけでなく、他の教科でも情報モラル教育を充実させた成果であると考えられる。 ●資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現することに課題が見られた。	・資料の読み取りだけでなく、資料から読み取れることを自分の言葉で表現する活動を増やしていく。また、ポイントカードなどの電子マネーの実際の使い方などを知る学習の充実を図る。
日本の政治	平均正答率は、市の平均と比べて2ポイント低い。 ○国会の仕組みについての問題では市の平均を5. 8ポイント上回る。衆議院と参議院を比較しながら繰り返し学習したことの影響であると考えられる。 ●日本国憲法の三原則や非核三原則の理解に課題が見られた。	・日本国憲法の三原則や非核三原則の確実な理解のために、単元で学習した内容を、自分たちの生活の場面や日々のニュース内容に置き換えながら考える活動を継続的に取り入れる。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均と比べて6. 6ポイント低い。 ○飛鳥時代についての出来事の問題では市の平均を3. 3ポイント上回る。時代の出来事を、場所や人物、大切な言葉を関連させながら捉える学習を行った成果であると考えられる。 ●安土桃山時代、江戸時代の理解に課題が見られた。	・日本の政治的な権力の移り変わりについて、時代の流れとともに連続的に捉えられるように、時代背景や歴史的な事象が起こった要因などをしっかりおさえながら学習を進めていく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.8	72.6	73.1
	図形	71.4	75.7	74.7
	変化と関係	70.2	73.6	66.1
	データの活用	68.0	69.2	70.7
観点別	知識・技能	70.7	75.5	74.4
	思考・判断・表現	66.5	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

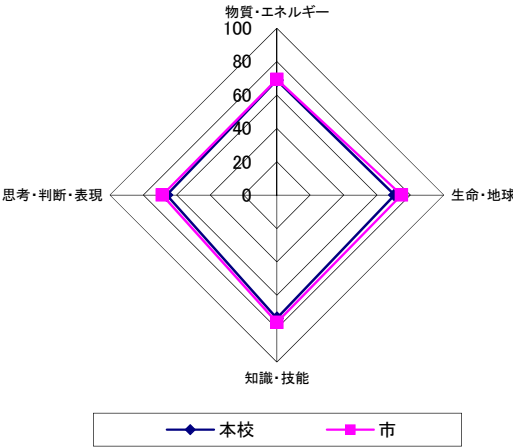
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均と比べて3. 8ポイント低い。 ○図を見て、小数倍の文章問題(何倍かを求める)問題は市の平均を2. 2ポイント上回っている。式を考える際、線分図や数直線を書いて考える学習を継続してきた結果と考えられる。 ●分数の計算では、たし算での通分やわり算の計算に課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・分数の加減乗除のそれぞれの計算で、答えを導き出す過程で必要な通分や約分が正確にできるように、類似問題等で復習を行う。
図形	平均正答率は、市の平均と比べて4. 3ポイント低い。 ○点対称な図形の理解については、市の平均を6. 3ポイント上回っている。実際に点対称な図形を回転させるなどして理解を深めた結果と考えられる。 ●高さが図形の外にある平行四辺形の面積や直方体を組み合わせた形の体積を求める計算に課題が見られた。	・図形の底辺や高さをきちんと確認できるように図形のつくりを確かめてから問題を解くように学習を進める。 ・複数の立体が組み合わさっている際に、それぞれの立体の縦、横、高さを確認するとともに、合計する際に確かめ算をするように問題練習を重ねて定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、市の平均と比べて3. 4ポイント低い。 ○表から面積と人数の割合を求める問題は、市の平均を11. 6ポイント上回っている。比べられる量、基にする量、割合の関係について、図や公式を使いながら習熟を続けた結果と考えられる。 ●速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す計算に課題が見られた。	・単位の意味を理解させ、問題に合わせた換算ができるように指導をしていく。 ・時間と速さ、距離の関係について、線分図を活用して単位の関係についてとらえながら問題を解けるよう習熟を重ねる。
データの活用	平均正答率は、市の平均と比べて1. 2ポイント低い。 ○代表値を用いて問題文にある意見の理由を説明する問題は市の平均を2. 8ポイント上回っている。ICTを活用し、自分の考えを他者と比較することで、基本的な解答の仕方を共有した結果と考えられる。 ●円グラフから割合を読み取り、基準量から比較量を求める計算に課題が見られた。	・文章題を解くだけでなく、図や表から数値を読み取り、割合や基準量について計算できるように問題練習を重ねることで、求めたい値が正確に求められるようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.9	69.3	65.7
	生命・地球	70.5	74.7	77.8
観点別	知識・技能	73.8	76.2	76.4
	思考・判断・表現	66.1	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均と比べて0. 4ポイント低い。 ○水に食塩を溶かしても、合計の重さが変わらないことを問う問題では、市の平均を6ポイント上回っている。実験の結果を考察する活動を確実に行った成果であると考えられる。 ●電磁石と棒磁石に共通する特徴を指摘する問題での誤答が多く、磁石の特徴の理解に課題が見られた。	・電磁石の単元の学習における知識の定着を図るため、当該学年以前の電気に関する学習の復習から学習を始めるようにする。 ・正しく実験ができる技能の向上を図るために、理科の学習で実験をする際に、比較して検証をするためには、条件を変えるものと変えないものなどを確認したり、実験の結果とそこから分かったことをおさえたりしていく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均と比べて4. 2ポイント低い。 ○食べ物を通した動物と植物の関係を指摘する問題については、市の平均を4. 2ポイント上回っている。生物と環境の関係について、実体験と結びつけながら考えたことが知識の定着につながったと考えられる。 ●動物の呼吸に関する問題について、実験の構想や成分の変化に関する問題に課題が見られた。	・より正しく実験ができる技能の向上を図るために、実験をする際には、その方法についてよく理解させる。 ・実際に実験をするだけでなく、ICT機器を活用してデジタル教材を視聴したり、教科書のまとめの部分をしっかりと確認することで、正しい実験の方法と結果を結び付けられるようにしていく。

宇都宮市立緑が丘小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICTを生かした授業改善への取組	学習でICTの効果的な生かし方を研究し、知識を定着させたり、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を行ったりする。	パソコンに関する質問についてはどの項目についても昨年度より肯定的回答が上がっている。「キーボード入力ができる」は86.6%、「パソコンを使ってのまとめができる」は79.9%と特に高い。「パソコンを使って相手に分かりやすく考えや調べたことを伝えることができる」は昨年度よりも肯定的回答は上がったものの、69.9%である。
学ぶ楽しさを実感できるようにする取組	めあてを示し、授業の見通しをもたせたり、集団の学びを個に返し、ふり返りの時間を確保することで、一人一人の学びを確かなものにし、自己の成長を実感できるようにしたりする。	「学習していておもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答は88.8%、「学習していろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」は91.8%である。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

・学力調査の結果は市の平均と同じか下回っている。次年度は、基礎基本が確実に身につくように、AIドリルや復習用教材などのプリントを活用し、漢字や敬語、計算、各教科の基本的な用語の定着を図っていきたい。また学習したことをアウトプットさせながら主体的・対話的な学びを実現することで、深い学びを得ることができるよう授業を展開したい。その際、ICTのさらなる主体的・対話的で深い学びを実現させるための手段として研究を進めたい。さらに、自主学習などの機会を利用し、学び方を学んだり、個別最適化した学習を行ったりしていききたい。